

補正下着で健康管理

生活習慣改善実証へ市職員参加

3カ月後の効果検証

弘大とアツギ

疾病予防につながる補正下着開発などに共同で取り組む弘前大学と、ストックキングなどの製造販売大手「アツギ」(本社神奈川県)は弘前市職員を対象に、開発中の体型補正下着を活用した生活習慣改善実証に着手する。

「健康と美」をキーワードに、3カ月後にどのような効果が出るかを検証するもので、今後の商品開発などに役立てられる。

(下山和枝)



補正下着を着用前(画面左)と着用後(画面右)の3D体型測定の様子を示す大石特任教授

アツギは2018年6月、弘前大学院医学研究科に共同研究講座「健康と美、医科学講座」を開設。肥満に注目し、①体型の見える善などに挑戦する「下着の着用②健康教育③生活習慣の改善」を研究の柱とし、身につけることで自主的な健康管理につながる下着の開発に取り組んでいる。

一方、市は弘前大学COI(センター・オブ・イノベーション)につながる拠点との連携強化を基本方針の一つに掲げ、健康増進政策や弘前発「路重」拠点長は「まち

のビジネスモデル構築

に取り組んでいることから今回、アツギが開発中の体型補正下着を活用した生活改善実証に、市職員60人が参加することになった。

体型補正下着は一般的に女性用が知られるが、今回は男性用も用意。実証では補正下着を着用した上で、普段より運動や食事などに

づくりには健康づくりも必要。弘前市も参加したことで非常に意義がある」と評した。

5月下旬に実証が開始されるに当たり、市職員は8日から補正下着の適切なサイズを確定する3D体型測定が訪れ、補正下着のフィッティングなどを行う初回検査をした。

市文化スポーツ課の村田善彦さん(49)は「自分の健康が気になったり、年代になってきたのや、肺活量や血圧などのような結果が出るのか楽しみにしている」と話した。